

当院における早期栄養介入管理の取り組みについて

関口 恵子

三重県立総合医療センター 栄養管理室

【目的】当院では経腸栄養プロトコールの作成・導入を行い、2020 年 7 月から早期栄養介入管理を開始し、使用する栄養剤を半消化態栄養剤のラクフィアから、消化態栄養剤のペプタメンスタANDARDへ変更した。これらの取り組みによる効果を検討した。

【方法】

ICU で集中治療を要した経口摂取不能な患者を対象とし、対象期間は介入前(2019.4～2020.3, n=41)、介入後(2020.7～2021.6, n=43)とした。ICU 入室後から経腸栄養開始までの時間、下痢発生率、嘔吐発生率、経口摂取獲得率、退院時栄養摂取方法、経口摂取獲得までの日数、NST 介入率を比較検討した。

【結果】

介入後は介入前と比較し、経腸栄養開始時間は 76 時間から 46 時間に短縮した($P=0.00591$)。嘔吐発生率は 24%から 5%に減少した($P=0.01245$)。NST 介入率は 25%から 77%に上昇した($P=0.0223$)。経口摂取獲得率、退院時栄養摂取方法はほぼ変化がなかった。下痢発生率は減少し、経口摂取獲得までの日数は短縮したが、有意差はみられなかった。

【考察・結論】

当院 ICU における経腸栄養プロトコールの作成および早期栄養介入管理の実施は、早期経腸栄養開始や嘔吐の発生率低下に有用であることが示唆された。また、半消化態栄養剤よりも消化態栄養剤を使用することが下痢・嘔吐予防に有用である可能性が示唆された。